

1940-70年ニューヨーク・アート業界のネットワーク分析

大阪市立大学 笹島秀晃

【1. 目的】

本報告は、アメリカ合衆国ニューヨークにおける1940年から70年までの絵画や彫刻をめぐる社会関係の変化を社会ネットワーク分析の手法で検討する。そのことによって、アートの制度変化の研究に対して、社会ネットワーク分析という手法が具体的にどのような知見をもたらしうるのかを明らかにすることが報告の目的である。ハリソン・ホワイトとシンシア・ホワイトが1965年に *Canvases and Careers* のなかで絵画の制度変化を論じて以来、論者によって概念化は異なれど、作品の生産・流通・受容をささえる組織・制度の変化は関心を持たれ続けてきたテーマである。ハワード・ベッカーはアートワールドの生成・成熟・消滅を論じ、ピエール・ブルデューは文化生産の界の自律化を記述し、またリチャード・ピーターソンは文化生産における「通時的」分析の重要性を指摘した。近年、アートの社会学において英語圏を中心に社会ネットワーク分析の研究が登場し始めている。雑誌や評伝をもちいた社会ネットワーク分析は、作家同士の関係性、あるいは作家と関係団体のあいだの関係性を明らかにしてきた。こうした研究は、アートの社会学における制度変化のテーマに関して重要な貢献をもたらすと考えられる。なぜならステファン・ボルガッティらが述べたように、資料を活用した社会ネットワーク分析は、時系列で関係性の推移を記述し変化の過程やダイナミクスを描くことを可能にするためである。しかし、先行研究では社会ネットワーク分析の手法が、アートの制度変化の研究に対して具体的にどのような意義をもつのかについて十分な答えを提示してこなかった。

【2. 方法】

1940年から70年までの作家（画家・彫刻家）と展示施設（画廊・美術館・大学附属施設）からなる2 mode のネットワークデータを分析する。具体的には、1969年にニューヨーク市のメトロポリタン美術館で開催された *New York Painting and Sculpture: 1940-70* の展覧会カタログに収録されている展示作家43人の経歴データを活用した二つの分析を行う。第一に、ネットワーク構造の諸指標（次数・密度・中心性）を分析しネットワーク構造上の変化を記述する。第二に構造同値性の観点から社会ネットワークを整理し、関係性の構造に現れた変化を記述する。具体的には、CONOCRのアルゴリズムでブロックモデリングを行う。

【3. 結果】

ネットワークの諸指標を時系列で記述することによって、ニューヨークのアートをめぐる社会関係が60年代以降大きく変化し、グローバル化の動向が現れ始めることが明らかになった。また、ブロックモデリングの結果から主要グループ間の関係性の推移が明らかになった。特に、ニューヨークに立地するミュージアムと画廊の関係性が密接になる過程が明らかになった。

【4. 結論】

社会ネットワーク分析は、以下の二つの点でアートの制度変化の研究に独自の知見をもたらす。第一に、資料を活用したネットワークデータを分析した場合、指標をもちいて時系列で変化を数値的に記述できるため、関係性の推移をより明示的に理解することが可能になる。第二に、ブロックモデリング等の計算によってネットワーク構造を縮約することで、作家や展示組織からなる諸グループの構成と相互の関係性の推移を記述することが可能となる。